

一斉法要のご報告

〔平成二十七年〕

○新年祈祷会 一月九日

今年最初の一斉法要は筆頭総代、熊谷豊太郎氏のお話しから始まりました。

大正六年生まれ、今年数えて百歳を迎えた熊谷総代。戦後七十年を迎える節目の年に、実際に戦地に赴かれた経験から、生死を分ける命理不尽さ、命運の不思議さをお話し下さり、平和の大切さ有難さをお話し下さりました。

年配の方々の中には当時を思い出し涙する方もいらっしやいました。また、若い方々は経験談の内容に戦争の惨めさを教わりました。

一斉法要には毎回、参加して、ご挨拶をされる熊谷総代のバイタリティーの源が戦地をくぐり抜けてきた気力と命運の強さを見た思いで

ニュース・アラカルト



す。

「総代が元気なうちは、もう歳だからしようがないなどと言っていていられないな」と皆さまの目標にされ、「その元気にあやかりたい」と握手を求められ、皆さまに囲まれてにこやかに対応される、百

歳翁でした。

○節分追儺法会 二月三日

奉納演奏 ～尺八と箏の調べ～

昨年「身代り不動明王大祭」での奉納演奏が、とても好評では非、一斉法要でも演奏して欲しいとの声が多く寄せられ「尺八と箏の調べ」と題してご祈祷の前に演奏して頂きました。

虚無僧の威儀で颯爽と演奏される遠藤先生は尺八に親しみ開軒五十年。平林先生との息もぴったりでその美しい調べにうつとり。今回は鑑賞だけでなく皆で「さくら、さくら」「荒城の月」「四季の歌」などを一緒に歌い、春を迎えました。



— ニューヌ・アラカルト —

尺八：都山流・竹琳軒大師範・遠藤千玖山先生。

箏：生田流・筑紫会飛梅司・大師範・平林歌容先生と平林歌美緒・師範。





ご祈祷後は恒例の豆まき。大相撲友綱部屋と
のご縁も早や四年目となり、今年も旭秀鵬関と
年男・年女も檀に登って一緒に「福はうち〜！」

— ニューズ・アラカルト —



○春彼岸法会 三月十九日

法話 当山副住職 前平武男師

今年より、副住職となった前平武男師によるお話。

「ただ花は、見る人の珍しきが花なり。秘すれば花なり、秘せずは、花なるべからず」と、世阿弥の歌を紹介され、五月の善光寺ご開帳参拝旅行に向け、お寺で行われる行事への積極的な参加を呼びかけられ、お寺へ足を運ぶことの大切さを、「『聞・思・修』の智慧を増して行く事の大事さ」を中心に説かれました。

聞とは聞法、お寺に足を運び仏さまの教えを素直に聞く事。思とは教えを聞いて自分に引き当てて思う事。修とはそれを行い、修めていく事。繰り返し、繰り返し「聞・思・修」を行う事で仏法が身につけて行く事となります。

「薰習（くんじゅう）」と言う言葉があるよう

ニ ュ ー ス ・ ア ラ カ ル ト



たつきつと道は開けますとお話しされました。

※薰習…香が自然と移り沁むように、習慣的に働きかけることにより、影響・作用をうえつけること

に、お寺に足を運ぶ事で自然と智慧が身につけていきます。そしてその智慧を生活に活かして幸せに日常生活を送りましょう。「ありがとうございます」と「ごめんさい」が素直に言えるようになって

○孟蘭盆施食法会 六月二十六日・二十七日

法話 当山住職

両日にわたり、約八百人の方々がお盆のご供養に御参拝されました。

住職より大本山總持寺二世峨山禪師六五〇回大遠忌に關したお話。

更に昨年の二十四時間テレビでドラマ化された『はなちゃんのみそ汁』の話をされました。

この話は癌で余命宣告を受けた母親が幼いわが子（はなちゃん）へ何を残していくべきか、生きていく上で何が大事かを教え伝えていく実話です。お母さんが亡くなってもはなちゃんはお母さんに教わったように毎日を大切に精一杯の自分の出来る事をして生きます。お母さんから教わった味噌汁をちゃんと作りながら……。

どうぞ良いお盆をお互い迎えましょうと結ばれました。

二五八・アラカルト





ニユーヌ・アラカルト

○秋彼岸法会 九月二十一日

法話 山梨長泉寺住職 水庭浩章師

ここ数年、秋彼岸の法話を務めて下さる水庭浩章師。師は今年より大本山永平寺東京別院長谷寺講師に任命されました。

毎日、修行僧と寝食を共にしており、体重が十キロ以上落ちて身体が軽くなりましたとご挨拶。住職を預る寺を留守にしなくてはいけない心配もお檀家さん達が、快く送りだして下さい、留守の間は以前にも増してお寺に足を運んで、気にかけて下さっていることに感謝しながら、今、自分に与えられたご縁を精一杯務めさせて頂いておりますとお話されました。

(ご法話の内容は34ページをご覧ください。)

◇身代り不動明王大祭 大般若祈祷法会

五月二十八日



僧侶九名にて大般若転読。檀信徒各家、有縁各家の家門繁栄、諸災消除、諸縁吉祥を御祈念申し上げました。住職は鈴木福田会の皆さまよりご寄贈頂いたお袈裟にてご祈捧致しました。

ニユー・ス・アラカルト

山内整備

○不動殿の御手洗

男性と女性の御手洗を分けました。女性は今までの場所のまま個室を増やし、男性は廊下の突き当たり内玄関の脇に新しく設置致しました。普段のご利用は釈迦殿（二階客殿）にて足りると思いますが、一斉法等で大勢の方の参拝時、順番待ちが少しでも解消出来ればと整備しました。どうぞ、ご利用下さい。

○くろだ文庫

先代方丈の口癖は「趣味は貯金と読書」。事ある毎に呵々と笑いながらおっしゃられていらつしゃいました。貯金の方は全くのジョークでしたが、読書家でいらつしゃった事は確かです。梅嘉庵脇にプレハブを建てて永年かけて集めた

蔵書を保管しておりました。簡易的なプレハブで十数年が過ぎ、図書も傷む事が懸念されておりました。この度住職の発願にて師匠への報恩行として新しく建物を建て整理を致しました。

「くろだ文庫」と名付けられた建物には、『日本大蔵経』『高麗大蔵経』『パリー語大蔵経』（タイ国皇帝陛下還暦記念出版、ワットパクナムプラタムパンヤーポデー住職より善光寺開創二十周年を記念して御寄贈）『一切経』『正法眼蔵』などの仏教書などを中心に美術関係や文学関係の図書も多数納められました。

一般公開はしておりませんが、ご興味のある方は閲覧できます。（要連絡）

— 二 五 一 又 ・ ア ラ カ ル ト —



震災義捐金の御礼

東日本大震災直後、皆さまから多数のお気持ちを
お寄せ頂き曹洞宗ボランティア（SVA）
を通して現地に寄付をさせて頂きました。

復興への長い道のりに微力でも支援を続けさ
せて頂くため皆さまよりお納め頂きました尊い
浄財である護持会費の一部を平成二十七年五月
八日、國廣護持会会長と共に神奈川新聞厚生文
化事業団に伺い日本赤十字社への寄付をさせて頂
きました。

個人の支援も含め寺としての支援も継続して
行っただけで参りたいと思えます。

ご報告と併せ、ご理解とご協力をお願い申し
上げます。

ニュース・アラカルト



花まつり

四月八日はお釈迦さまのお誕生日。
客殿に設置した花御堂の御誕生佛に甘茶を
かけてのお参り
かわいいお客さまも一緒にお参り。



— ニュース・アラカルト —

AED講習会

お寺には大勢の方がお参りに見えますので、
AEDを備え付けています。



お蔭さまで設置後、一度も使用する事なく機
械の交換をむかえま
した。入替に伴い、
講習会にて使用方法
の確認をしました。
安心してご参詣下さ
いね。
備えあれば憂いな
し、今度の機械も使
用しないで済みます
ように！

防災訓練

二月二十日（金）、消防署より職員を講師としてむかえて防災訓練が行われました。消火器の練習や発火想定のもとで避難誘導を行いました。訓練後消火器の位置などの再確認、誘導や通報などのマニュアルを作成しました。実際にはあわててしまうかも知れませんが、日頃の訓練が大事ですと、ご指導頂きました。

おさない
かけださない
しゃべらない
もどらない

（避難・誘導時の掛け声）

ニュース・アラカルト



ボーイスカウト坐禅会

二月十五日（日）、毎年恒例のボーイスカウト坐禅会が行われました。



朝早く、ちびっ子から保護者まで八十名を越す方々が一緒に坐りました。

丁度、お釈迦さまのご命日でもあり、坐禅後、住職より涅槃会に因み涅槃図のお話があり、皆、興味深そうに聞いていました。

— ニュース・アラカルト —



○善光寺総代・友人代表として

東郷敏様より弔辞

追悼

東郷 敏

鳥居さん残念です。天命とは申せなんともお悔やみのコトバありません。

不帰の前日病床にお見舞いしたとき『オレは大丈夫だ心配いらぬヨ』意識もうろうの中で気概に溢れていた御大。

呼びかけました『理事長。あなたが一番キライだと謂う大阪のトーゴーです』これにはさすが反応。目見開いて微笑んでおいででした。それから僅か半時。あまりに突然の訃報に愕然、信ずることが出来ませんでした。

これまで善光寺参上の都度必ず一献の間柄。NOと言われたことがない。クライ同志ながらとことん酌み交すことでした。是席雑談の中で

ニユース・アラカルト

人の生死、心の在り方など随分論を尽したように思います。言いたい放題・好き勝手。お互い様ここに受け難き人身を受け、遇い難き仏法に遇いながら、すでに無常の風に吹かれる身上。

迫り来る終わりを感得しつついま、何が出来るか、何をするか、いかんせん、共に気力はあつても体力の限界を承知している二人。限りなく述べて尽したこと数えきれません。

さて数々の呼称をもつ御大。いったいあなたの心地よい呼称はとの尋ねたことがあります。『そうだなあ、親方かなあ、否オレがうれしいのは匠の神だ。生まれたときから粉塵の中石屋だヨ。頭と腕を使い仏さまを彫り出すことだ。お蔭さまで人間も石仏みたいになつてしまつたよ。』

身体は小振りなのにまことに人間は応用。呼称に御大の足跡が偲ばれ美事お人柄が表現され讀え尽して尚足りぬものがあります。日頃強韌

な御方でも奥方さまには滅法弱い。『オレ怖いものなのだが、ウチの上さんがオッカネエンだよ』奥方には全く頭の上がらない親方。何処で食してもお帰りは必ず奥方に「take out」優しいお方でした。

御大の御功績は私ごときが尽せるものではないかもしれません。ひとつだけかつて善光寺大圓武志和尚がスリランカに国賓として招かれ同道したときのこと、御大は合間を縫って単独行動。先のインド洋大津波大災害の現地へ赴き学校を訪ね歩き教室も教材もないことを知って帰国後膨大な援助物質と教材を空輸。被災地で自らの手でお配りなされていらっしゃる様子が現地のテレビ、新聞等で『衆生の導師再来』と報道されているのを知って唯々感服敬服でした。〔「成寿」三十七号に当時事情掲載〕

以来、内外の災害に対し同様の心身と私財をお尽くしになる。その心、身を削り尽しても尽

— ニュース・アラカルト —

しても尚足りぬご心情。しかしこの裏で切り盛りなさるお台所用人奥方さま。よくぞ耐え忍ばれたものと敬服です。奥方さまに於かれてはこれより吐き出すご心配からは解放なされます。しかし同時に存在が大きかっただけにお悲しみと淋しさはひとしおです。

あ々無常！ 生者必滅・会者定離とは申せ辛いことです。残された御遺族の皆様悲しみに負けないで下さい。理事長はキット天のみ仏さまに守られて救われて召されて逝かれたことと思います。ご立派なご後継者も育ち鳥居石材店は日野石材協同組合と共に磐石です。

御大どうぞ安らかに。アリガトウございました。

総代会

平成二十七年九月七日に定例の総代会が開催され昨年度の活動報告と今年度・来年度の活動予定が話し合われました。また総会において新たに五名の方が総代に委嘱されました。寺門興隆に檀信徒の代表としてご尽力を賜ります。今後共宜しくお願い申し上げます。

鳥居悟様

三浦順治様

湯浅佳信様

山下正樹様

米陀光様

ニュース・アラカルト

日野石材協同組合設立五十周年

日野公園墓地地元石材店からなる日野石材協同組合が設立五十年を迎え、去る二月十五日横浜インターコンチネンタルホテルにて祝賀会が開催されました。

業界関係各社並びにご縁の方々地元寺院など多数のご列席のもと鳥居理事長（当時）より五十年にわたり継続している組合の結末と今後更なる発展に向けての決意が語られた。善光寺からは、住職、副住職はじめ熊谷筆頭総代、ひばりの森顧問である大野孝雄総代ら数名の総代が招待され参加致しました。

日野公園墓地並びに組合の更なる発展をご祈念申し上げます。

